

歯周病と 全身疾患との関係

前号では、歯周病とはどのような病気であるかについての説明と、歯周病が全身におよぼす悪影響についての解説を行ないました。

関連する代表的な全身疾患として、糖尿病や狭心症などの歯周病と同じ生活習慣病が挙げられます。また、肺炎や早産、骨粗しょう症など多種多様な病気にも悪影響をおよぼしています。

そこで今号では、歯周病と様々な疾患との関連について解説していきます。

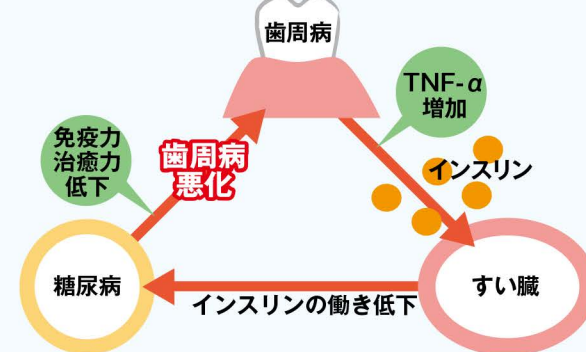
糖尿病

歯周病は以前から糖尿病の合併症とされてきたため、これまで多数の研究報告があります。前号でも触れましたが、歯周病になると、サイトカインという炎症関連物質が体中に放出され、その中の一つにTNF- α という物質があります。このTNF- α がインスリン（血糖値を下げる働きをするホルモン）の働きを阻害することにより、血糖値が下がりにくくなり、糖尿病も悪化しやすくなるのです。さ

らに、糖尿病が悪化すると細菌に対して感染しやすくなり、また、病気が治りにくくなるために、歯周病も悪くなっていきます。歯周病がさらに悪化すれば、大量のTNF- α が放出されるというような悪循環になってしまうのです（図1）。

一方、歯周病を治療することにより血液中のTNF- α 濃度が低下し、糖尿病の指標であるHb（ヘモグロビン）A1cも低下するという報告もあり、結果的に歯周病の治療により糖尿病も良化するという良い循環になることもあるのです。

図1 糖尿病と歯周病

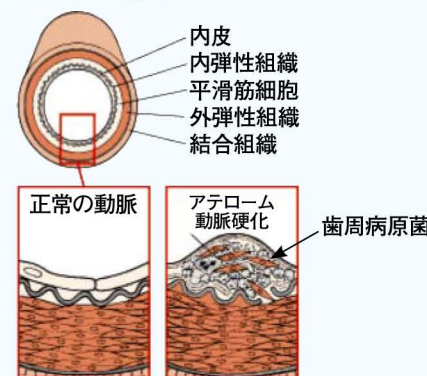


心血管系疾患

歯周病原細菌は歯周ポケットを介して血流に入り込んでしましますが、もし血液中で増殖すると敗血症といった重大な感染症に陥ることもあります。また、心臓の弁膜に障害があると、そこで病原細菌が増殖してしまい、細菌性心内膜炎を起こし、死に至ることもあります。

また、心筋梗塞には喫煙や肥満などの生活習慣が関与していますが、歯周病原細菌による血管内壁の傷害や、動脈硬化の病変部から病原細菌が検出されるなどの研究報告が多数あり、歯周病が心筋梗塞を引き起こす重要な因子であることがわかってきました（図2）。

図2 動脈の断面図



肺炎

高齢者や寝たきりの要介護者などは、飲み込む力が衰えているために、食べ物が食道ではなく誤って肺へ行ってしまふことがあります。この際に、口の中が清掃されず、歯周病が重症化していると、病原細菌が肺へ入ってしまい、「誤嚥性肺炎」が発症してしまいます（図3）。要介護者などには誤嚥性肺炎にならないよう、口腔清掃を主とした口腔ケアは非常に重要なのです。

早産・低体重児

妊娠すると全身の女性ホルモンが増えるのにもない、口の中にも多く分泌されるようにな

ります。歯周病原細菌の中には、女性ホルモンを栄養分としている細菌がいるため激増し、結果的に妊娠すると歯周病が発症、または進行しやすくなってしまいます。歯周病になると、プロスタグランジンという物質が産生され、それが間接的に子宮を収縮させるなどのトラブルをも

たらします（図4）。妊娠前からの定期的な口腔内の健診は非常に重要です。

骨粗鬆症

閉経により女性ホルモンの分泌低下が生じます。女性ホルモンは細菌の栄養素と説明しましたが、骨の代謝を調整する役

割もあるため、欠乏すると骨粗鬆症になりやすいのです。また、歯周病原細菌は、骨を破壊する細胞を活性化させてしまうために、さらに骨粗鬆症が悪化しやすいのです（図5）。

図3 歯周病菌

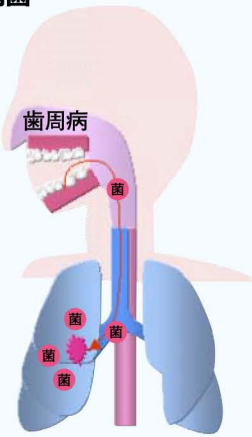
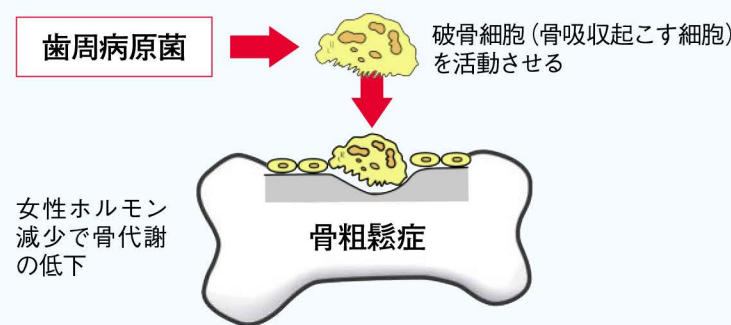


図4 歯周病血管内



図5 歯周病原菌



日本歯科医師連盟

JAPAN DENTAL FEDERATION

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-20
TEL.03-3262-8644 / FAX.03-3263-0345
ホームページ <http://www.jdpf.jp/>

監修 日本歯科大学生命歯学部
小川智久准教授